

当院職員の医療安全対策意識調査

岐阜県立下呂温泉病院 中央放射線部 国田 義則

【はじめに】

私たち病院に勤務者は、日々医療安全に最大限の努力をはらいながら職務に専念をしている。しかし、病院における医療安全の事柄は複雑多岐にわたっており、すべてに注意をかたむけながら業務を遂行することは困難であると考え。そのため、病院職員は医療安全対策項目間に何らかの優先順位をたてて業務をおこなっていると考え。職種間で医療安全に対する認識の違いを把握することは、効率的な医療安全対策をたてる基礎資料となると考え、岐阜県立下呂温泉病院（以下当院とする）職員の医療安全対策項目に対する重要性認識測定をおこなったので報告をする。

【目的】

当院職員の職種ごとの医療安全対策項目に対する重要性認識を測定する。

【方法】

対象者 ----- 当院で開催された医療安全研修会参加者

期間 ----- 平成 23 年 11 月 21 日

研究方法 ----- 当院のインシデント報告の用いられる 7 項目の医療安全対策について回答者が重要と考える順位をアンケートにより求めた。

統計解析方法 ---- アンケート結果を正規化順位法と l. s. d 検定により、職種ごとの医療安全対策項目の比較をおこなった。

倫理的配慮 ----- データの収集、分析においても個人を特定できないように配慮をした。

【結果】

医療安全研修会の参加者数は 143 名、アンケートの回答数 127 (回収率 89%) を得た。不適格な回答を除いた有効回答数は 120 (有効回答率 91%) であった。

重要性認識がもっとも高くなった項目は「安全な治療の実施」であった。重要性認識がもっとも低くなった項目は「医療・健康情報の保護」であった。

【考察】

「安全な医薬品の使用」が他の項目との間に有意差を認めた職種は看護職員のみであった。看護職員は、安全な治療の実施を一番重要と考えており、次に安全な医薬品の使用を重要と認識していた。看護職員は、医師、歯科医師と共に医療行為の最終実施者となる場面が多く、責任者としての認識が表れているのではないと考える。その他の医療安全対策項目は職種により様々な順位をとった。コ・メディカルの結果は非常に特徴的な順位を示した。医療安全対策項目の順位は明確に有意差を認めるものが少ないため順位を付けることはできなかった。コ・メディカルは様々な職種で構成されていることから医療安全対策項目について多様な考えを持っていることがうかがえた。今回の調査から、重要性認識が低いと評価された「医療・健康情報の保護」の啓発活動がこれからの課題と考える。また、重要性認識調査は医療安全啓発活動の効果測定として有用性があると思われる。

【結語】

当院職員の医療安全対策重要性認識のアンケート調査をおこなった。職種により重要と考える項目順位は異なるが、全職種で重要性認識がもっとも高くなった項目は「安全な治療の実施」であった。重要性認識がもっとも低くなった項目は「医療・健康情報の保護」であった。職種による重要性認識に大きな違いがあることが分かった